

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成 19 年 9 月 20 日 (2007.9.20)

【公開番号】特開 2006-49109 (P2006-49109A)

【公開日】平成 18 年 2 月 16 日 (2006.2.16)

【年通号数】公開・登録公報 2006-007

【出願番号】特願 2004-229116 (P2004-229116)

【国際特許分類】

H 0 5 B 3/00 (2006.01)

G 0 3 G 15/20 (2006.01)

【F I】

H 0 5 B 3/00 3 1 0 E

H 0 5 B 3/00 3 3 5

G 0 3 G 15/20 1 0 9

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 8 月 6 日 (2007.8.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 4】

2 0 1 は像担持体としての感光ドラムであり、矢印の時計方向に所定の速度で回転駆動される。感光ドラム 2 0 1 はクリーニング装置 2 0 2 により表面が清掃された後、帯電部材 2 0 3 により所望の極性・電位に帯電される。その一様帯電面に露光装置としてのレーザーキャナ 2 0 4 により像情報に応じてレーザービーム走査露光がなされて、感光ドラム 2 0 1 の表面に像情報に応じた静電潜像が形成される。その静電潜像は現像装置 2 0 5 によりトナー像として現像される。感光ドラム 2 0 1 には転写部材 2 0 7 が当接して転写ニップ部を形成している。この転写ニップ部に記録材 2 0 6 が前記レジスト装置 2 1 3 により所定の制御タイミングにて供給されて挟持搬送されていく。この挟持搬送過程において転写部材 2 0 7 に印加している転写バイアスにより感光ドラム 2 0 1 側のトナー像が記録材 2 0 6 の表面に順次に静電転写される。

上記の感光ドラム 2 0 1、帯電部材 2 0 3、露光装置 2 0 4、現像装置 2 0 5、転写部材 2 0 7 等が、記録材 2 0 6 に未定着像（未定着のトナー像）を形成担持させる作像手段である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 5】

メインサーミスタ 8 は、最小通紙幅 E の通紙域内に、第二の検温素子であるサブサーミスタ 8 1 は、最小通紙幅 E の端と抵抗発熱体 6 の端の間に配置される。本実施例では、メインサーミスタ 8 は、抵抗発熱体 6 の長手中心位置たる通紙中心位置に配置し、サブサーミスタ 8 1 は、通紙中心位置から電極 2 3 側へ 9.3 mm の位置に配置した。サブサーミスタ 8 1 は、メインサーミスタ 8 とは異なる位置に配設した温度検出素子である。前述のようにメインサーミスタ 8 は加熱体 3 の温度制御に用いるのに対し、サブサーミスタ 8 1 はその近傍の温度検出用に配設している。即ち、サブサーミスタ 8 1 は、所定サイズよりも

幅の狭い被加熱材が搬送された場合に非通紙部となる位置の温度を検知する。